

～ 住民主体でつくる誰もが『支え合い・助け合い』の出来るまちづくりを目指して ～

野崎地区が取り組むこと、それは・・・

目 標		実現のための主たる具体的目標	関連機関・団体	第2次計画の取り組み(2026年度～2030年度)
1	のびのび (安全・安心)	①地域内の誰もが安心・安全に過ごせるよう見守り・遊び場の充実を図ります。 ②既存の地域交通の利用を促進し、地域交通を育て、安心で豊かな生活につなげます。 ③災害時にも助け合えるよう自治会などの組織と連携し、防災意識を高める機会を促進します。	①学校安全ボランティア・見守り隊・地区社協 ・学童保育・福祉施設 ②自治会・民生委員・いきいきクラブ ・地区社協・ほほえみセンター ③防災士・消防団・自主防災組織・自治会 ・地区社協・ご近所	見守り・遊び場のニーズの把握～設立に向けた検討・促進 市バス・デマンド交通の利用促進・ニーズの把握/改善取組の推進(地域交通を育てる改善案の起案) 関連組織と連携し、災害時の助け合い&顔の見える関係づくりの推進・防災意識啓蒙活動の推進
2	ざわざわ (活性化)	④地区内の誰もが交流できる場づくりを進めます。 ⑤より魅力ある自治会・地区社協とするため、仕組みづくりを検討します。 ⑥若い世代も含め、未来を見据えた担い手の育成に、努めます。 ⑦地域のつながり(地域行事・見守り・居場所など)を広げるため、世代に合った、みんなに届くPR活動をします。	④ひょうたんクラブ、幼稚園/保育園・小中学/高校生/大学生・活性化協議会・シルバー大学OB・福祉施設 ⑤自治会・地区社協・活性化協議会 ⑥自治会・活性化協議会・高校・大学 ⑦自治会・自治公民館・野崎地区公民館	地区(交流)イベントの開催など交流する機会の促進 地区組織の連携(課題の見える化/プラットフォームなど)仕組みの検討推進 経験者の発掘/人材確保の推進・地区イベント/活動への参加を通じた担い手の育成の促進 PR活動の促進・世代に合ったPR手段の工夫検討の推進
3	きずな和く輪く (ひとづくり)	⑧地域に住む様々な人との交流を通して支え合いの地域づくりを進めます。 ⑨日頃の近所のつながりを強めるため、地域交流活動を促進します。 ⑩地域に住むすべての人がつながる方法をみんなで考えます。	⑧地区社協・ボランティア・民生委員・福祉委員・いきいきクラブ・福祉施設 ⑨自治会・自治公民館・いきいきクラブ ⑩いきいきクラブ・民生委員・福祉委員・地区社協	企業、施設、組織及び地区団体などと連携し、障がいを持った方や高齢者などとの交流活動の促進 「あいさつ運動・声かけ運動や清掃活動」など、地域交流活動の促進 地域に出てこれない人と、つながる方法の検討推進

野崎地区協議体の話し合いから生まれた活動

目標1に関連する活動



防災食の試食体験

☆文化祭にて「防災コーナー」を開設し防災意識を高めるPRを推進中!



☆デマンド交通のお試し体験にて地域交通の利用を促進しています!

目標2に関連する活動



ひょうたん絵付け体験

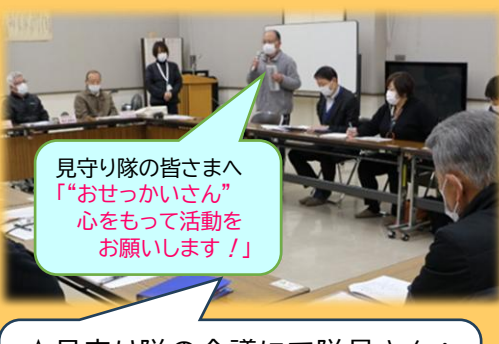
☆文化祭にて「ひょうたん絵付け」を開設し、三世代交流をしています!



写真審査中

☆のざき写真自慢コンテストでは、野崎の良い所をPRしています!

目標3に関連する活動



見守り隊の皆さまへ
「おせっかいさん」
心をもって活動をお願いします!

☆見守り隊の会議にて隊員さんへ「おせっかい心をもっての活動」呼びかけしています!



回覧板を回す際に、「ひと声・声かけ運動」を推進しています!



☆回覧板を回す際の「ひと声・声かけ運動」を推進しています!

野崎地区「居場所」活動



「おしゃべり♥ウォーキング」
話しが弾んで楽しいねえ〜♪

野崎ニュータウン地区:
「ふれあい・ミニサロン」



色々なアイデアが出て♥
立派な「ハロウィン飾り」が
出来ましたあ〜♪

薄葉第3団地地区
「サンカフェ」



♥皆さんの楽しそうな歌声が
公民館に響き渡っていました♪

野崎東町地区:
「福輪家(ふくわうち)」歌おう会



節分の豆まき♥
大盛況でした♪

薄葉団地地区:
「お茶ラカ会」

<地区社会福祉協議会>



文化祭展示会場

<第2層協議体会議>



協議体会議の様子

<安心生活見守り事業>



平成27年2月に、野崎地区の見守り活動がスタートしました。見守り活動を通して支え合い・助け合いのできる地域づくりを目指しています。更に見守り活動のPR、認知症サポーター養成講座や声かけ訓練、居場所づくり活動等を行っています。

地区社会福祉協議会は、各地区の自治会長、公民館長や民生委員、子供会育成会、いきいきクラブ代表者などで組織され、4つの部会を中心に、さまざまな地域福祉活動を行っています。地域内ひとり暮らし高齢者の方を対象にした、食事サービスなども行っています。

生活支援体制整備事業は、平成30年4月から全国すべての市町村で一斉に始まりました。この事業は地域住民が主体となり「支え合いの地域づくり」を目指すもので、その協議と実践のきっかけを作る組織として「協議体」があり、現在33名の委員で構成されています。

<野崎地区活性化協議会、いきいきクラブ、ほほえみセンターなどの活動>



のざき桜まつり「玉入れ競技」



いきいきクラブ「輪投げ大会」



ほほえみセンター「ミニレク大会」

「小地域福祉活動計画」策定委員 ※

※策定委員は野崎地区協議体委員を兼務
○策定委員会委員長 ○副委員長

No.	氏 名	地域づくりに関する役職	No.	氏 名	地域づくりに関する役職
1	◎筒井 雅治	地区社協会長・協議体委員長 見守り隊総隊長	18	櫻井大二郎	地区社協児童福祉部会会長
2	○佐々木祐治	区長会会長	19	堀之内 実	地区社協企画広報部会会長
3	矢板 康德	協議体副委員長・民生委員児童委員 地区社協福祉奉仕部会会長	20	蛭田 厚	地区社協役員(書記・会計)
4	小川 利治	上石上自治会長	21	栗城 努	地区いきいきクラブ副会長
5	橋本 忠司	地区自治公民館連絡協議会会長	22	田中 和夫	薄葉ほほえみセンター管理長
6	小野崎久美	前民生委員児童委員	23	田中 榮啓	協力者:元薄葉ほほえみセンター管理長
7	唐橋 洋子	前主任児童委員	24	橋本 貴幸	協力者:元地区社協役員、元民生委員児童委員
8	杉本 尚子	前民生委員児童委員	25	大久保 孝	協力者:元地区社協役員
9	渡邊 京子	民生委員児童委員	26	益子 正則	協力者:元地区自治公民館連絡協議会会長
10	近藤 登	民生委員児童委員	27	村上 昭夫	協力者:元地区社協会長
11	村上貴美枝	前民生委員児童委員	28	唐橋 宗光	協力者:元地区社協役員
12	南澤むつみ	主任児童委員	29	鈴木 博文	協力者:元地区社協役員
13	上野 博	民生委員児童委員	30	郷野目敦子	協力者:元福祉委員代表
14	森嶋 正紀	前民生委員児童委員	31	渡辺 正	協力者:元生活支援コーディネーター
15	益子 徳子	前民生委員児童委員	32	山崎 昭宏	ひかりのざき保育園 園長
16	伊藤 環	地区福祉委員代表	33	相川 和弘	生活支援コーディネーター・見守り隊主任
17	荒井誠一郎	地区社協老人福祉部会会長			

令和8年3月発行

編集:野崎地区社会福祉協議会 小地域福祉計画策定委員会 事務局:大田原市社会福祉協議会(Tel 23-1130)

野 崎 地 区

『支え合い・助け合い』の地域づくり計画

(第2次 小地域福祉活動計画 2026年度~2030年度)

小地域福祉活動計画とは？

将来を見据えて、私たちが住んでいる地域の良い所や課題などについて話し合い、みんなで協力しながら、『支え合い・助け合い(互助・共助)』の活動を進めるための「野崎地区社会福祉協議会」の計画です。

～ 目指す地域像 ～

のびのび
さわわ
きずな和く輪く

野崎地区の人口構成

(2026年1月1日現在)

人 口	年少人口(0～14歳)	659人	自治会数	11自治会	
	生産年齢(15～64歳)	3,342人	世帯数	2,692世帯	
	高齢人口(65歳以上) (うち後期高齢者(75歳以上)人口)	1,997人 (1,097人)	高齢化率	大田原市	32.60%
	野崎地区合計	5,998人		野崎地区	33.29%

野崎地区の特色

野崎地区は、大田原市の西部に位置し箒川の流に沿い11の自治会で構成されています。国道4号線やJR宇都宮線が地区内を横断しており、JR宇都宮線野崎駅を中心に地域の活性化が様々な形で進められています。

野崎地区は、野崎村の時代より農業や自営業を中心に暮らしている地域と、50年前に造成された、野崎工業団地に立地した企業に従業する、県内外からの移住者で構成している住宅団地とに、大きくわかれております。農家でも徐々に農業に従事する人が少なくなっていますが、高齢者同士協力し農業を守りながら環境保全活動や、地区内育成会と協働で、生き物調査活動などにも取り組んでいます。

野崎地区では、11の自治会が一つになり上石上公園での『のざき桜まつり』野崎駅前広場での『夏祭り』野崎中学校での『文化祭』などが毎年盛大に行われています。更に一部の地区では『お神輿渡御』『どんど焼き』などの行事も毎年行われています。

地区内にある2つの小学校と1つの中学校では生徒数が年々減少してきているものの、このような地区内行事に多くの生徒が積極的に参加しています。

そんな中、高齢者が中心となって運営している、「いきいきクラブ」や「ほほえみセンター」でも様々な活動が介護予防活動を兼ね、自治公民館などで毎日のように活発に行われています。

大田原市内には12の地区社協があります。それぞれの地区では、様々な形で地域福祉活動の取り組みが行なわれています。



県指定無形民俗文化財『城嶽舞』

天文14年(1545年)大田原資清が大田原城築城後、工役の農民に酒をふるまった際、石神村(上石上)の藤兵衛が酒に酔い、鍬や鋤を持ち、踊ったことが由来とされており、470年以上続く民俗芸能です。※写真は、「野崎写真自慢コンテスト」入賞作品です。